



特集1「地方創生ムービー2.0」始動！

宇都宮発の餃子×ラブコメ映画『キスできる餃子』製作スタート！

地方創生をめざす エンターテインメント映画が宇都宮で！

バツイチシングルマザーが宇都宮市で実家の餃子屋再建に奮闘するエンターテインメント映画『キスできる餃子』がクランクイン、宇都宮市内各所でロケが行われました。地方創生にも大きな役割を果たすことが期待されるこの映画について、関口快流会頭と主演女優の足立梨花さんの対談を中心に特集しました。

Part 1 『キスできる餃子』ってどんな映画？

誰でも楽しめる ラブコメディ映画

この夏、宇都宮餃子をテーマにした映画が宇都宮市でクランクインしました。「映画史上初？ 餃子×LOVEエンターテインメント」とうたったラブコメディ映画『キスできる餃子』です。主演はテレビや映画で活躍中の足立梨花さん、田村侑久さん。監督は作家でもある秦建日子さんです。公開は来年初夏を予定しています。製作については、宇都宮餃子会はこちら

ん、宇都宮市や宇都宮観光コンベンション協会、当所など官民のさまざまな組織がバックアップしています。

また、映画には地域おこしの役割も期待されています。一歩進んだ地方創生の試み「地方創生ムービー2.0」（後述）の第2弾としても注目されており、来年本番を迎えるデスティネーションキャンペーンの「環」として位置付けられています。

宇都宮と餃子にラブコメディを加えた映画『キスできる餃子』。宇都宮の人ならば、タイトルだけでもわくわくしてきませ

んか？

ストーリーを簡単に紹介すると—— バツイチ子持ちのシングルマザーが主人公。地元の宇都宮に戻って来て、実家の餃子屋の再建と子育てに奮闘します。

その最中にイケメンの新聞配達青年に出会い、物語が進んでいきます。ところがその青年、実は今をときめくプロゴルファーだったのです！

果して彼女の新たな恋は実るのでしょうか？ そして実家の餃子屋の行く末は？ ストーリーはまさにラブコメディの王道、幅広い層にアピールできる映画になるに違いありません。

主演女優の足立梨花さんは「ゆうばり国際ファンタスティック映画祭2017」でニューウェーブアワードを受賞しています。この10月に公開される『アヤメくんのんび

に地域の魅力を届けることができるということでしょう。

これまで映画やドラマのビジネス活用と言えば、ロケーションの誘致や広告タイアップ、プロダクトプレースメント（ドラマの中に実在の企業名や商品名を登場させる手法）などが主なものでした。しかし「地方創生ムービー2.0」では、ストーリー自体に深い地域性を持たせることで、より進んだメリット、効果を生み出すことを意図しています。

クランクインパーティーでスタート！

8月15日（火）午後6時から、宇都宮市内のホテルでクランクインパーティーが開催されました。監督の秦建日子さんと主演の足立さん、田村さんなど映画キャスト、スタッフに加え、関係者が一堂に会しクランクインを祝いました。出席者は約250人と、大盛況のパーティーになりました。

パーティーに先だって開催された「宇都宮地方創生ムービー2.0を推進する会」（以下「推進する会」）設立総会で会長に就任したばかりの当所・関口快流会頭が、まず登壇し、「餃子の街・宇都宮市を舞台にした映画で魅力を発信し、来年本番を迎えるデスティネーションキャンペーンや、その後のオリンピック、国体などの開催の際に、全国の皆さまが宇都宮市に足を運んでいただくきっかけになり、地域活性化につながることを期待しています。来年の上映に向けて、今後とも皆さまのご理

解とご協力をよろしくお願いします」と映画への期待をこめてあいさつしました。

また、乾杯の後で秦監督と足立梨花さん、田村侑久さんがこの映画にかける意気込みを話しました。

「一年以上かけて準備をしてきました。何度も宇都宮に来て、少しずつ魅力を体験し、いまでは大好きな街になりました。皆さんと最高の映画を作りたいので、よろしくお願いします」（秦監督）

「宇都宮市には今までに何度か来ていますが、ゆつくり滞在したことがなかったの

で、これを機会に好きな場所やお店を探したいと思っています。餃子も大好きですから、映画のために餃子作りを特訓し、上手に作るができるようになりたいと思います」（足立さん）

「僕は名古屋を中心に活動し、ふだんから地域を盛り上げるためにがんばっています。この映画も地域を盛り上げる映画なので、栃木県や宇都宮市が第2の故郷

と言えるようにがんばりたいと思っています。I LOVE とちぎ！」（田村さん）

監督も主演の2人もやる気十分の『キスできる餃子』は、8月から9月にかけて宇都宮市内などで撮影を行い、来年6月の公開をめざしています。



パーティーであいさつする関口会頭



田村侑久さん



足立梨花さん



秦建日子監督



佐藤栄一・宇都宮市長からのビデオメッセージ



秦監督と足立さん、田村さんインタビューは笑いの渦

この映画『キスできる餃子』は、監督の秦さんのオリジナル脚本です。劇作家・小説家・演出家・シナリオライターとさまざまな分野で活躍している秦さん。テレビ化・映画化された『アンフェア』は、秦さんの「雪平夏見シリーズ」第1作『推理小説』が原作です。

秦さんは会社員時代に劇作家・演出家のつかこうへい氏と出会い、彼に師事して演劇の世界に入りました。その後、脱サラして作家となり、多くのヒット作を世に

「地方創生ムービー2.0」とは？

送り出してきました。と同時に演劇の世界でも意欲的に活躍、「劇団秦組」を主宰して舞台演出を手がけてきました。そんな秦さんが映画を手がけたのは、平成28年、三重県桑名市を舞台とした映画『KUHANA!（クハナ）』が第1作でした。

その前年、秦さんは「地方創生ムービー2.0プロジェクト」をスタートしました。これは地域振興と活性化のためのエンターテインメント映画製作をめざすものです。その第1弾が『KUHANA!』でした。

桑名市の小学生たちがジャズに出会ってガールズ・ジャズバンドを結成、それに関わる大人たちとともに成長して行く物語は、エンターテインメント映画としても高く評価されました。東京ではなく、地方を舞台にして、娯楽性の高い映画を製作することにより、その地域の魅力を関連事業も含めて全国に発信する、新しい地域活性化モデル——それが「地方創生ムービー2.0」です。

秦監督は、「映画はエンターテインメントの王様。国内だけでなく、世界に発信することもできます。映画は地域の暮らしの（空気感）を伝えるのにいちばん適したメディアだと思っています」と話しています。

まじめなドキュメンタリーではなく、誰でも楽しめる完成度の高い娯楽映画の枠組みで地域の魅力（人、風景、名物、産業、街なみなど）を伝えることが、より多くの人の心

映画特別対談

Part 2

関口快流会頭×足立梨花さん

特集後半は、当所関口快流会頭と、『キスできる餃子』主演女優の足立梨花さんによる対談です。年齢は違っても同じ申年同士、餃子好きも一緒とあって、うちとけた雰囲気での対談になりました。

「子育てに恋に一生懸命

がんばる女が主人公」

(足立さん)

関口 本日はよろしくお願いします。足立さんはサッカーがお好きなんですか？

足立 はい。数年前まで「Jリーグ特命PR部 女子マネージャー」を務めていまし



「キスできる餃子」主演 足立梨花さん

た。シーズン中に全37クラブ（当時）のホームスタジアムを回りました。今でも大好きです。

関口 ではこの機会に、栃木SCも応援してください。

足立 もちろんです！

関口 今回の『キスできる餃子』で足立さんが演じる主人公は、どんな役柄なんですか？

足立 私が演じる藤田陽子は、女性らしい部分もあるんですけども、どちらかというと男っぽくて、一生懸命がんばる人。パツイチでシングルマザーという設定です。子どものことが大好きで、子どものことを第一に考えるんですけど、まだちょっと恋愛



サインをいただき笑顔でツーショット

宮市は「住みやすさ日本一の街」（東洋経済『都市データバック』）ですから、そういうことが銀幕からにじみ出てくれるのかなと思っています。

「宇都宮餃子には

すごい歴史があるんですよ」

(関口会頭)

関口 ところで足立さん、餃子はお好きですか。

足立 大好きです！ 家でも作ったりするんですけども、皮から作ったりすることはめったにありません。今回の映画では実



餃子や映画の話題を楽しく語り合いました

足立 それがですね……これは映画のラストを観てほしい！（笑）映画を観ていただければ、この『キスできる餃子』というタイトルがどうしてこうなったのか、キスできるとはどういうことなのかも分ると思うので、ぜひ観ていただいて「なるほどな！」と思っ

関口 では、来年6月までお預けで（笑）。楽しみにしています。

足立 お願ひします（笑）。関口会頭は、好きな餃子は何ですか？

関口 餃子は全部大好きです。高校時代から食べていますから。

戦前宇都宮市には、陸軍第14師団があり、満州（現中国東北部）へ出兵してそこで餃子を食べたんですね。それで戦後、帰って来た人たちが「おいしい食べ物があるよ」というので始まったのが、餃子なんです。ですからすごい歴史があるんですよ。

したいという女の子としての心も持っています。いろんな表情をする女性だと思うので、そういうところをちゃんと表現できるといいな、と思っています。

関口 子どもは何歳の設定なんですか？

足立 6歳くらいです。20歳で子どもを産んでいる設定です。若くして母親になったからこそ、母親なんだけれどもまだちょっと母親になり切れていない部分もあり、でも一生懸命母親になろうとしているところもあり、その一方で自分の人生も楽しもうとしている、強い女性なのかなという感じがしています。

「映画で宇都宮市の

街の魅力を伝えてほしい」

(関口会頭)

関口 この映画はエンターテインメントであるとともに、地域創生の役割も担う「地域創生ムービー2・0」です。一作目は三重県が舞台でしたが、足立さんも三重県のご出身ですね。地方を元気にというテーマについては、どう考えていますか？

足立 私は、三重県は三重県でも、三重県三重郡菰野町という、すごく小さいコミニティーで育ちました。三重県という大きなくくりで言えば伊勢神宮があるとか、鳥羽水族館があるとか、鈴鹿サーキットがあるとか、有名な場所もたくさんあるので



宇都宮商工会議所 関口快流会頭

餃子と水しかない、という餃子専門店も多いんですよ。これは全国で宇都宮市くらいにしか、無いんじゃないでしょうか。

足立 見たことないです。撮影中においし

「自分の演技からいろいろなことを

感じてもらえる役者に」

(足立さん)

関口 女優を志したきっかけは？

足立 実は、自分で志したわけではなくて（笑）。父が新聞の記事で「ホリプロスカウトキャラバン」の告知を見て「応募するぞ」と言ったのが、きっかけだったんです。だから、お父さんに導かれてこの世界に入ったみたいな感じ

関口 （笑）

足立 そういう入り方だったので「演技なんて恥ずかしくてできない」とずっと言っていたんですけども、初めて映画に出させていただいた時に「演技をすること」の魅力に触れられて、それから演技



「餃子は大好き！ 映画が出来るまで得意料理にしたいです」(足立さん)

が、自分の地元をみると、なかなか盛り上がっていない部分もあります。本当は盛り上げていきたいのだけれど、私たち個人人にはどうやればいいか、分らないですよ。

関口 はい。

足立 ですから「映画」という方法で地域のアピールができるのはすばらしいことだと思いますし、そのお手伝いができることは、とてもうれしく感じています。

関口 「三重県は伊勢神宮」とおっしゃいましたが、栃木県には日光がありまして。

足立 そうですね。

関口 宇都宮は県都なんですけれども、観光の面ではどうしてもそちらにひっぱられてしまします。餃子では有名なんですけども、知名度の高い観光地が少ないと日頃感じています。だからこそ、餃子を題材にしてまた宇都宮の街を映してもらえるのは、大変ありがたいですし、地域おこしという意味でも非常に意義深いと受け止めています。宇都宮市の魅力、街なみや観光地などが画面に出ることで、大きなアピールになって欲しいですね。また、宇都

が好きになりました。

関口 では、今ちょうど意欲もあり、楽しさも……。

足立 同時に難しさも感じていますけれども、自分が演じたことで笑顔になってくれたり泣いてくれたり、いろんな感情になつてくれる人がいることが、すごくおもしろいなと感じています。『キスできる餃子』でも、自分のいろんな面を見せて、観てくださった方々にいろんなことを感じ取ってもらいたいですし、そういう役者さんになりたいなと思います。

関口 10月には主演映画『アヤメくんのんびり肉食日誌』が封切になりますね。

足立 そうなんです。そっちはがらつとイメージが違う役柄ですけども、実はそっちも物語にキスが関連して——最近キスだらけなんですけれども（笑）。

関口 今が旬な足立さんに主演していただけて、本当にありがたい。宇都宮についていると、今日お話しして実感しました。楽しみにしています。期待しています。

足立 ありがとうございます。



「足立さんが主人公を演じてくれて、宇都宮は本当にいいです」(関口会頭)